

極東開發工業

適用範囲		モデル名		PY120-33C	PY165-39	PY120B-26D		
		主仕様	吸吐弁型式	—	スイング	スイング	スイング	
			最大吐出量	m ³ /h	122(88)	165	120(85)	
			最大吐出圧力	MPa	4.9(7.0)	8.5	4.6(7.1)	
			ブーム最大地上高	m	32.6	38.3	25.7	
適用号機		17P070020～		17P110018～	20P11-0002～			
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値				
作業装置	ポンプ本体	ピストンストローク回数	回/min	27±2	35±2	30±2		
		ロータ回転数	回/min	—	—	—		
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2600±25)	(1800±25)		
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1714±20)	(1791±25)		
		(作動油温度)	(℃)	(50±10)	(50±10)	(50±10)		
		かくはん装置	回転速度	min ⁻¹	34±3	31±3	30±3	
	チェーンのたわみ		mm	—	—	—		
	(油圧ポンプ回転数)		(min ⁻¹)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2600±25)	(1800±25)		
	真空ポンプ	(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1714±20)	(1791±25)		
		(作動油温度)	(℃)	(50±10)	(50±10)	(50±10)		
		圧力設定値 (設定値到達時間)	MPa (min)	— (—)	— (—)	— (—)		
		圧力降下許容値 (保持時間)	MPa (min)	— (—)	— (—)	— (—)		
	Vベルトのたわみ	mm	—	—	—			
	ブーム装置	シリンダ 自然降下量	ブーム (1) シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	
			ブーム (2) シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	
			ブーム (3) シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	
			ブーム (4) シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	
			ブーム (5) シリンダ	mm	—	0.5 以下	—	
スターバース装置		(測定時間) (作動計測条件) (作業装置姿勢)	(min) [図面No.]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 4]	(10) (—) [図 No. 1]		
		ブーム (1) 伸び	sec	80±10	75±10	55±10		
		縮み	sec	100±10	110±10	75±10		
		ブーム (2) 伸び	sec	100±10	115±10	70±10		
		縮み	sec	100±10	135±10	70±10		
		ブーム (3) 伸び	sec	95±10	90±10	60±10		
		縮み	sec	95±10	110±10	90±10		
水圧機	ブーム (4) 伸び	sec	45±10	80±10	30±10			
	縮み	sec	75±10	100±10	45±10			
	ブーム (5) 伸び	sec	—	35±10	—			
	縮み	sec	—	65±10	—			
	(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2600±25)	(1800±25)			
	(作動油温度)	(℃)	(50±10)	(50±10)	(50±10)			
	(作業装置姿勢)	[図面No.]	[図 No. 3]	[図 No. 6]	[図 No. 3]			
洗浄装置	水ポンプ (配管洗浄用)	吐出圧力	MPa	23.5±1	20.6±1	23.5±1		
		油圧 水圧 飛距離	MPa m	6.6 —	5.7 —	8.0 —		
	空圧機	吐出圧力	MPa	—	0.93	—		
洗浄装置		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2600±25)	(1800±25)		
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1714±20)	(1791±25)		
		(作動油温度)	(℃)	(50±10)	(50±10)	(50±10)		

☆印：新車基準値を表す（参考値）。

コンクリートポンプ車

[illegible]

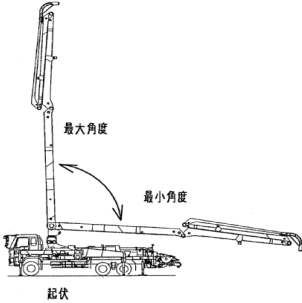
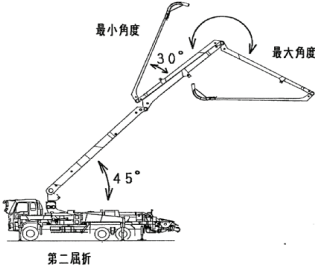
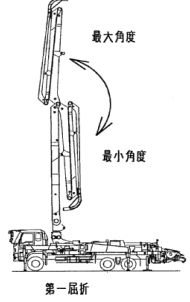
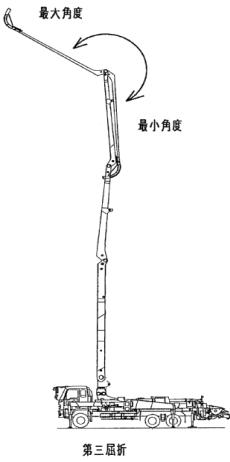
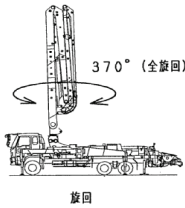
適用範囲		モデル名		PY120-33C	PY165-39	PY120B-26D	
		主仕様	吸吐弁型式	—	スイング	スイング	スイング
			最大吐出量	m ³ /h	122(88)	165	120(85)
			最大吐出圧力	MPa	4.9(7.0)	8.5	4.6(7.1)
		ブーム最大地上高	m	32.6	38.3	25.7	
		適用号機		17P070020～	17P110018～	20P11-0002～	
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準			値
油圧装置	☆油圧機器 セット圧	主油ポンプ油圧	MPa	29.4±1	36.0±1	28.5±1	
		弁シリンダ油圧	MPa	29.4±1	19.0±1	18.6±1	
		かくはんモータ油圧	MPa	13.7±1	13.7±1	13.7±1	
		ブーム油圧	MPa	34.3±1	34±1	27.5±1	
		ACCガス封入圧力	MPa	—	7.8±1	7.8±1	
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2600±25)	(1800±25)	
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1714±20)	(1791±25)	
		(作動油温度)	(℃)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	
車体・安全装置	☆旋回ベアリング 取付けボルトの 締付け	外輪取付けボルトの 締付トルク	N・m	—	1050±35	294±9.8	
		内輪取付けボルトの 締付トルク	N・m	—	1050±35	294±9.8	
		取付けボルトの交換基準	年	—	特記 5)	特記 5)	
	☆旋回作動速度	旋回速度	sec	135±10	240±15	165±15	
		(旋回作動角度)	(度)	(370・限定旋回)	(365・限定旋回)	(360・全旋回)	
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2600±25)	(1800±25)	
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1714±20)	(1791±25)	
	(作動油温度)	(℃)	(50±10)	(50±10)	(50±10)		
アウトリガ	シリンダ 自然伸縮量	各垂直シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	
		(測定時間) (作業装置姿勢)	min [図面No.]	(10) [図 No. 2]	(10) [図 No. 5]	(10) [図 No. 2]	
				1) 油圧ポンプは斜板を最大吐出量の状態にすること。 2) 標準圧送システムの場合について示す。 3) 自動給油は給油されていることを確認すること。 4) シリンダ耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。			
特記事項					5) 締付トルクを下回る緩みが1本でもあればそのベアリング輪(外輪 又は内輪)のボルト全数交換。		
				5) ブーム制振装置 ACC ガス封入圧力 13.8MPa	6) ブーム制振装置 ACC ガス封入圧力 13.8MPa	6) ブーム制振装置 ACC ガス封入圧力 14MPa	

22

[illegible]

23

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、 ブームをまっすぐに伸ばした 状態で保持する。各ブームシ リンダにダイヤルゲージを取 り付け、10分間の自然降下量 を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみ とし、過重は加えない。	図-1 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
		
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定 対象のアウトリガの真上に置 く。アウトリガにダイヤルゲ ージを取り付け、10分間の自 然降下量を計測する。	図-2 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢
		

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、 各ブームシリンダの全ストロ ークの作動時間をストップウ ォッチで計測する。	図-3 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)
	 起伏	 第二屈折
	 第一屈折	 第三屈折
	 旋回	

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	図-4 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	図-5 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	図-6 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)